

事業統合事例⑧ 宇部市・山陽小野田市の水道広域化	
事業規模等	給水人口 : 229,989 人 1日最大給水量: 93,601 m ³ /日 給水面積 : 202.1 km ² 職員数 : 【直営】 176 人 【第三者委託】 0 人 【委託】 0 人
スキーム等	<pre> graph TD A[水道事業広域化検討委員会] --> B[宇部市] A --> C[山陽小野田市] </pre>
経緯	○平成27年6月 : 「水道事業広域化検討委員会」を設置 ○平成27年度末をめどに、広域化基本計画を策定予定
広域連携 (事業統合) のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材及び技術力の確保 [スケールメリットによる計画的な人材育成] ・ 日常の施設管理水準の向上 [浄水場共同化によるコストの削減、サービス向上] ・ 災害対応、危機管理能力の向上 [スケールメリットによる、災害時の要員確保、応急資機材の充実] ・ 事業効率の向上 [スケールメリットにより将来に向けた水道料金のアップ率を抑制]
広域連携 (事業統合) のデメリット	該当資料なし
業務手法 (公民連携等)	公営を基本 + ② 業務委託(個別・仕様委託)
対象業務 (維持管理体制)	※事業統合は未実施であり、実施後の想定 <pre> graph TD A[経営・計画、管理(総務・人事・財務)] --> B[営業] A --> C[維持管理(運転・保全)] A --> D[更新等(設計・建設等)] B --> E[窓口] B --> F[検針・料金徴収等] C --> G[施設] C --> H[管路] D --> I[施設] D --> J[管路] </pre>
浄水施設 維持管理	(現状は各事業体別に実施)